

5月21日（木）・22日（金）の学習状況等確認日では、数カ月ぶりに生徒たちの運動する光景を目にすることができました。

2年生は、学級ごとにバドミントンを15分程度行いました。学校では久しぶりに体を動かす機会でしたが、2年生は表情を輝かせながらバドミントンを楽しんでいました。「久々にみんなと運動できて楽しかった」「家でじっとしてつまらなかったけど、友達とコミュニケーションをとったり、動けたりして良かった」など、生徒たちにはこの身体を動かす活動が好評でした。

3年生は、学年レクリエーションとして、ドリブルリレーとフリースロー対決を行いました。フリースローは、4学級の代表生徒5名による対抗戦となり、同点の場合は学級担任がフリースローに挑戦し、勝敗を決めました。大いに盛り上がった学年レクリエーションでした。

まだ様々な制限があるため、必ずしも十分な運動量とはいえませんが、生徒たちにとって体を動かす時間を確保していくことはとても有意義であることを実感しました。今後しばらくの間、体育の授業においても、密閉・密集・密接を避けるなどの配慮のもと、体力づくりのための効果的な活動を工夫していきます。



5月21日の様子から

【中学生のころ】（第3回）

教頭 森田 理恵子

私の通っていた中学校は全く自由な学校でした。決められていたのは制服ぐらいで、いわゆる校則なんてものはありませんでした。ですから、生徒たちは伸び伸びと生活し、自ら考え自ら行動していました。

しかし、あるとき、買い食いが問題となりました。というのも、電車やバスを使って時間をかけて通学する生徒が多くいて、どうしても途中でおなかすいてしまい、最寄りの駅で買い食いをしてしまうのでした。生徒会で話合いがもたれました。

「自由と自分勝手に行動するのは違う。この学校の自由とよさを守っていくためにはみんなが考えて行動しなければいけない。」というようなことが生徒会から発表され、その後買い食いは少なくなっていました。

生徒の手で学校を動かす、これが理想の学校だと思います。規則や制約がある中でも、どうすれば生徒一人一人が充実した学校生活を送ることができるかを考えて実行してほしいと思います。学校での主役は生徒のみなさん一人一人なのですから。

